第150回　わかるように伝えていますか

坂井 聡

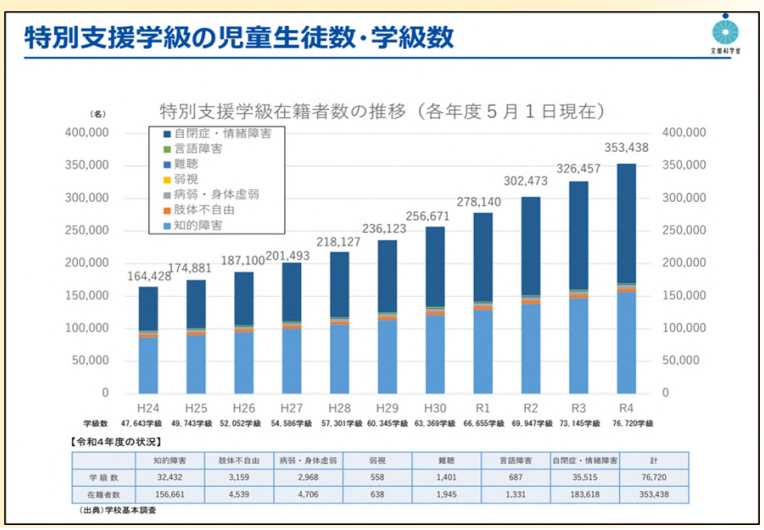
　なぜ、大学に在籍する障害のある学生が増えているのでしょうか。少し考えてみたいと思います。その理由として三点あげることができると思います。

　一点目は、発達障害や精神障害の診断増加です。これには、発達障害や精神障害に対する社会的な認知の広がりが背景としてあると考えられます。
図は特別支援学級に在籍する児童生徒数と学級数の推移を示しています。このデータから、自閉症・情緒学級に在籍する児童生徒数が大きく増加していることがわかります。小学校・中学校で診断を受け、自閉症・情緒学級で学ぶ生徒が増えているということなのです。自閉症・情緒学級では準ずる教育が行われるため、学力がついた生徒は高等学校や大学へ進学することが想像に難くありません。また、このことは、発達障害や精神障害のある学生の割合が増加していることからも確認できるでしょう。つまり小学校・中学校で診断を受け、支援を受けながら学んできた児童生徒が大学に入学してきたことが、障害学生数の増加につながっていると考えられるということです。

　二点目は、入試段階での配慮提供が進んだことで、進学の選択肢が実質的に拡大したことです。これは2016年の障害者差別解消法の施行が大きな理由であると考えられます。大学においては合理的配慮の提供が義務化され、この制度化により、学生が支援を申請しやすい環境が整いました。その結果として、自分の特性を開示し、合理的配慮を受けて学ぶ学生が増加し、障害学生数の増加につながったと考えられるのです。

　三点目は、大学に入ってから苦手なことが顕在化しサポートが必要になる場合が考えられます。高等学校までは成績が優秀であり、困難さに気づいていなかった学生が大学で一人暮らし等を始めて、本人にある困難さが顕在化したことにより、その数が反映されて、学生数の増加につながっているということです。対人関係の問題や修学上の問題がこれまではそんなに目立たなかったものが、目立つようになったということなのです。

　障害学生数の増加について、ネガティブに捉える教職員もいるかもしれません。しかし、この増加を単なる「問題の拡大」と見るのではなく、「困っている人や多様なニーズを持つ人の発見率が上がった」結果として捉えることが重要だと思うのです。
　潜在的な需要が顕在化した結果として、前向きに受け止める姿勢が求められるのではないかと考えています。



	知的障害	肢体不自由	病弱・身体虚弱	弱視	難聴	言語障害	自閉症・情緒障害	計
学級数	32,432	3,159	2,968	558	1,401	687	35,515	76,720
在籍者数	156,661	4,539	4,706	638	1,945	1,331	183,618	353,438

～坂井 聡先生のご紹介～
《プロフィール》
香川大学教育学部卒業。金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など、養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部教授。1997年には自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞。
自閉症スペクトラム支援士エキスパート、特別支援教育士スーパーバイザー、言語聴覚士。